

# 本会議 一般質問 (9/20) 要旨

## バリアフリー対策の

### 推進について

東京パラリンピック競技大会開幕まで、3年を切った。バリアフリー特定事業計画は、**東京大会開催が決定する前に作られた計画**。パラリンピック開催という、大きなファクターがあったにもかかわらず、新たな計画の作成や、区として推進するための施策の追加などが、目に見える形で表れていないことに、物足りなさを感じる。

計画策定以後、紙媒体であったバリアフリーマップをデジタル化し、たいとうマップに追加。今後、スマートフォンへの対応やルート検索機能など、公開内容を充実するとなっている。しかし、**マップ記載の施設は、公共施設や駅などの交通施設が大半で、民間施設の記載は数えるほどしかない**。民間施設のデータを集めマップへ反映させるため、また、バリアフリー対応の施設を増やすために、例えば、**ユニバーサルデザイン認定制度の創設や、バリアフリー推奨ルートの提示**なども検討すべき。バリアフリー対応の施設情報を充実したうえで、**オープンデータ化しアプリコンテスト**を開催。民間の知恵を借りるという手もある。

今回のパラリンピック開催が、**台東区のユニバーサルデザインやバリアフリーをしっかりと形作っていく契機**となるよう、誰もが、安全・安心・便利で快適に過ごせる台東区をめざし、より有効的に活用できるような**バリアフリー対策の推進をしっかりと行うべき**。

## 障害者施設の

### 整備について

「知的障害者グループホームの整備」については、現計画では、前計画の持ち越し分である1施設を含め、4施設の開設を目標としてきたが、**現在1施設の開設が予定されているのみ**となっている。実態調査の結果や障害者団体からの要望などからも、今後もニーズは増加。保護者の高齢化という課題もあり、益々施設整備の必要性は高まっていく。更に、地域的な偏在も考慮に入れて、整備を進めていかなくてはならない。

「生活介護施設の整備」については、現在4か所の施設を整備。増加目標の2か所については、**計画年度内の開設が非常に困難**。施設の利用者は既に定員に近づいており、将来的な利用者となる特別支援学校卒業予定者数は、増加傾向にある。また、高齢化により福祉的就労から生活介護へ移行すると見込まれている。近々、**生活介護を利用したくても、利用できる施設の空きがない**、といった状況となってしまう。

グループホームや生活介護施設等の整備は、計画通りしっかりと実現させていかなくてはならない。遅々として進まない現状を鑑みれば、**低利用・未利用の区有地・区有施設などの活用も積極的に検討すべき**。

## 松が谷福祉会館の

### 在り方について

松が谷福祉会館は、改築から30年が経ち**施設の老朽化が大変進行**している。

他施設への事業移管後も既存設備をそのまま活用し別事業を実施していることから、事業内容と設備がマッチしておらず、**有効にスペースが活用しきれしていない**。低利用・未利用のスペースもある。また、**療育事業のニーズは増加傾向**にあり。利用対象者の年齢引き上げも予定している。これらの状況を考慮すれば、**現状のスペースでは、とても対応しきれない**。更に、日中活動の場

の中核的な施設と位置付けられているのなら、障害者ボランティアの育成やサロン機能の充実などの課題に対応したスペースの確保も必要。

松が谷福祉会館は、保全計画において、早ければ平成32年度より大規模改修を行う予定。大規模改修に際しては、施設自体の単なる改修を行うだけでなく、今後どういった位置づけで運営していくのか、**事業の再配置を含め、しっかり検討すべき**。松が谷福祉会館のあり方の検討は、改修時期を考慮しても、早急に進めるべき。

## 子育て世帯のデータ

### 管理の充実について

現在の保健所では、子育て世帯個々のデータ管理は「母子カード」という紙媒体が基本。一部の情報のみがシステムで管理されている。紙とシステムとの二重で行うことには、効率性や管理の面から多くの課題がある。

子育て世帯の情報管理を、**システム化・一元化**することで、検診や相談などの利用施設制限がなくなり、**ワンストップサービスの推進**に。また、情報検索の迅速化や正確性の担保に寄与し、

**業務の効率性を向上、事務スペースの有効活用**にもつながる。セキュリティも格段に向上。更に、関係機関とデータを連携することで、総合的な情報把握を行うことが可能となり、**要保護児童対策を含め、妊娠期から子育て期までの切れ目ない支援を迅速に行う**ことが可能となる。31年度の浅草保健相談センター移転の際に、母子健康包括支援センターの拡充機能を円滑に実施するのなら、早急に**情報管理のシステム化及び関係機関との連携を含めた一元管理の検討等を進め、開設時には運用できる体制を整えるべき**。

- 昭和41年6月生まれ（現在51歳）
- 浅草寺幼稚園、待乳山小（現東浅草小）、蔵前中（現浅草中）、早稲田実業高、早稲田大学第一文学部卒
- 平成元年（株）西武百貨店入社秘書部配属
- 28歳で水野誠一参議院議員第一秘書。与党政調会長秘書として国政全般を学ぶ。衆議院議員政策秘書、都議会議員政策担当を務め、国政・都政の政策立案に携わる。
- 浅草町一町会青年部長、浅草神社西部若睦連合会副会長。

- 平成23年より台東区議会議員。（現在2期）
- ◇区議会 保健福祉委員会 委員長  
子育て支援特別委員会 委員  
環境・安全安心特別委員会 委員
- ◇会派 「つなぐプロジェクト」 政調会長

台東区議会議員 **早川太郎**

【ご意見・問い合わせ先】 ※区政に関するご意見・お問い合わせ等、ぜひお聞かせ下さい。

台東区議会議員 **早川太郎** 事務所 台東区日本堤1-23-4 TEL. 03-3871-8497 FAX. 020-4663-6984